

月刊島民

橋を渡る人の「街事情」マガジン

中之島

Vol.64 2013 11/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)



小名命



薬祖神
和神
豊神

400年。薬の道修町の



ナカシマ大学

「古地図ウォーカー、大阪をゆく」
&
「すごいぞ! 鉄道王国・大阪」

申し込み受付中!

大阪の祭りを締めくくると

道修町の 神農祭

中之島から少し南、道修町通には製薬会社が集まっていることで有名だ。では、なぜここが「薬の町」になったのだろうか。

町が最も盛り上がる神農祭の時期に合わせて、今月は道修町特集。

取材文／伏谷加奈子 江口由夏（本誌） 取材協力／少彦名神社 くすりの道修町資料館



今年は
道修町ゆかりの
ゆるキャラも
ぞくぞく!



町ぐるみで取り組む祭りだけに、この日はやはり近所の製薬会社に勤める人々も、スーツを脱いで法被姿で張り切る。



薬が安全に流通するように、との願いを込めた祭り。

青々とした五葉笹に吊るされた、こくこくと首を振る黄色い張り子の虎。1年の無病息災を祈願する「神虎の守り」を手にした人たちが、道修町通を行きかう。屋台が立ち並び、辻提灯や大笹の吹き流しが街を彩る。毎年11月に行われる少彦名神社の「神農祭」である。大阪の祭りは毎年1月に行われる今宮戎神社の十日戎で始まり、この神農祭で終わるため、「とめの祭り」とも呼ばれている。

神農祭の起源は江戸時代初期にまでさかのぼる。当時使用されていた薬は、植物の実や枝葉や根っこ、貝殻、鉱石などを砕いたものだった。そのため、儲けのために薬効のない植物などを混ぜたりする不届きな輩が後を絶たなかった。そこで道修町の薬種商たちは、薬の取り扱いが間違いなく行われるよう神様に安全を祈願するようになった。当初は唐薬を取り扱っていたこともあり、中国の薬の神である「神農」を祀っていた。これが今も残る「神農さん」の呼び名の起源でもある。

薬種業者たちによって、京都の五條神社から分霊を受けて少彦名神社が創建されたのは安永9年（1780）のこと。唐薬だけでなく国産薬も流通するようになり、日本の薬の神様である

道修町コラム.1

神農さんと言えば「神虎」の理由とは？

文政5年（1822）、大阪でコレラが大流行し、多数の死者を出した。これを受けて道修町の薬種仲間は、疫病除けとして虎の骨（薬効も値段も高い）を配合した「虎頭殺鬼雄黄圓」（ことうさっきうおうえん）という丸薬をつくる。虎はもともと魔除けの動物でもあり、張り子の虎とともに少彦名神社で祈禱して配った。以来、病除けのお守りとして知られるようになり、神農祭のシンボルに。現在も毎年約2万個が授与される。それでも1時間待ちは当たり前、待ちきれずに途中で脱落する人も。午後2時～4時は特に混むので時間をずらそう。



守口市にある神虎専門の製作工房で1個ずつ手作り。祭りが終われば来年に向け、また2万個を作り始める。



少彦名神社

神社の例大祭である神農祭は毎年11月22・23日に行われる。「11月23日は祝日やし、子どもやいろんな人にもっと来てもらいたい」（別所さん）と、今年ゆるキャラパレードを開催。右ページに登場の「神農さん」をはじめ、カイゲンの風神さんなど、道修町にちなんだキャラが勢揃い。●大阪府中央区道修町2-1-8



「地元」の神さんへ。

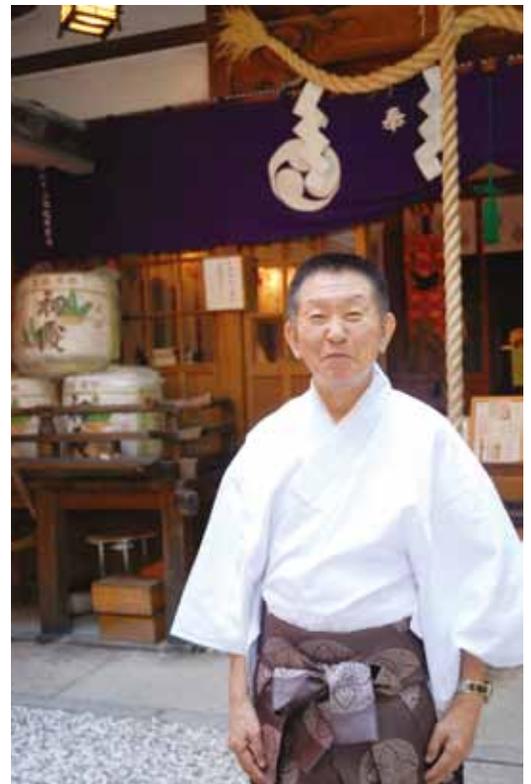


「少彦名命」も祀るようになったためだ。この時代、偽薬を販売することは死罪になるほどの禁忌。見逃して流通させてしまったのは、「薬の道修町ブランド」に傷がつく。安全への切実な祈願と薬業の繁栄を感謝する祭として、神農祭は斎行されてきたのである。

そうした背景もあり、当初この神社はあくまでも薬種業者たちのためのものであり、一般の人がお参りできるのは祭りの日だけとされていた。だが、昭和10年（1935）頃からは一般にも開放されるようになり、病氣平癒や健康

祈願のために訪れる人が増えていく。神農祭の様子も時代と共に変化し、昭和25年頃からは大笹にくす玉と吹き流しが飾られるようになった。これは、実行委員が祭りをもっと賑やかにするために全国の祭りを視察し、仙台の七夕祭りを見て思いついたもの。田辺製薬（現・田辺三菱製薬）の当時の社長、田辺五兵衛氏の声により、当初はわざわざ仙台からくす玉を取り寄せていたそうだ。また、道修町にある製薬会社の薬の箱を大笹に飾るのもこの頃から。これを吊すのは企業の社員にとつての楽しみなのだとか。

の宮司・別所俊顕さん。今では北船場に唯一の神社として地元の住民に親しまれている。最近では薬学部合格や薬剤師試験、医薬業界の就職活動へのご利益を求めて参拝する人も多いそう。神農祭もすっかり初冬の船場の風物詩となった。



●江戸時代

將軍のお墨付きをもらい、全国的に知られるように。

さて、道修町はいつ頃から「くすりの町」と呼ばれるようになったのだろうか。豊臣秀吉によって大阪城築城と共に城下町が整備されると、北船場には長崎からの輸入品を扱う貿易商が集まるようになってきた。そして寛永年間（1624～1644）に堺の商人・小西吉右衛門が道修町に薬種屋を開いたのをきっかけに、薬種業者が道修町に集まるようになった。地名の由来は諸説あるが、この辺り一帯が「道修谷」と呼ばれていたという説が有力とされている。

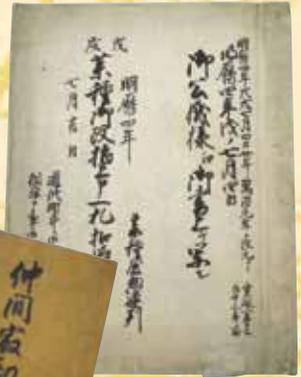
当時の薬種業者は生薬を中国や日本各地の産地から買い付け、全国の薬屋に卸す問屋業を行っていた。しかし、前述の通り品質の悪いものも多く流通しており、騙されないだけの確かな鑑定技術が必要とされた。例えば、乾燥して切りそろえられた木の枝を見ただけで、生薬の種類・産地・品質を見極め、的確な値段を付けられなければ仕事にならない。徹底した品質検査と流通管理が行われ、信用第一の商売に徹した。こうするうちに「道修町の業者の厳しい目になつた生薬は間違いない」という信用が築かれていった。船



「くすりの町」の400年。

取材・文／伏谷加奈子 江口由夏(本誌)

「薬種御改指上申一礼控帳」(右)と「仲間最初書」(下)。いずれも江戸時代における薬種業者の扱いがわかる古文書だ。



場の中でも道修町の商人は、商才と薬の深い知識が求められる専門家集団だったと言える。

そうした圧倒的な技術力と全国的な取引網が認められ、享保7年（1722）、江戸幕府八代將軍徳川吉宗は道修町の薬種商124軒を株仲間として認め、生薬を独占的に取り扱う特権を与えた。こうして道修町は全国に生薬を供給する総元締の役割を果たすようになり、「薬の町」として知られるようになっていった。ちなみに、この時代に誕生した薬種商には、「田辺屋」(現・田辺三菱製薬・1678年)、「伏見屋」(現・小野薬品工業・1717年)、「近江屋」(現・武田薬品工業・1781年)などがある。

●明治～大正

医学の西洋化と戦争、二つの波が道修町を襲う。

ところが、明治維新とともに、薬の町も変化を強いられることとなった。株仲間は解散となり特権がなくなった上に、医学自体が漢方医学から西洋医学へと一変したためだ。新しい薬学知識の習得や、事業の見直しの必要性を痛感した道修町の業者たちは、ここからしばし団結して生き残りを図ろうとする。

明治6年（1873）、今橋に民間組織の「精々舎」を設置し、オランダ人薬学者・ドワルスを招き、薬品の鑑定・製薬法を学んだ。西南戦争の影響でやむなく廃止された後も、有力者の私宅での薬学講習は続けられた。その中で、これまで通り卸売を営む薬業者としての知識を深める者もいれば、薬業者から薬舗（現在の薬剤師）を目指す者も現れはじめた。明治19年（1886）には、専門知識を持つ人材育成のため「大阪薬舗学校」を少彦名神社の場所に設立。さらに昼間に薬舗で働く者の夜間教育の場として、明治37年（1904）に「大阪道修薬学校」を塩野義製薬本社の場所に設立した。前者は大阪大学薬学部、後者は大阪薬科大学のルーツとなった。

また、道修町ブランドの信頼を維持するための品質管理にも気を配る。道修町でも西洋諸国から化学薬品を輸入・販売するようになったが、輸入薬の中には偽薬や粗悪品が多かった。薬品の品質保証検査に合格したものは印紙が貼られることになっていたが、新薬品が次々と輸入されるようになると、官立の大阪衛生試験所では検査できないものも増え、営業に支障を来すこともあった。

そこで、明治21年（1888）、各社が出資して品質検査を行う「大阪薬品試験会社」を設立。その審査は厳格を極めたというが、それを示すこんなエピソードがある。設立の翌年、東京の大手製薬会社の作った薬品を、大阪薬品試験会社は不合格品とした。そのことを不服としたその製薬会社は新聞・雑誌への謝罪広告掲載の要求をし、ついに訴訟となった。しかし、結局、大阪薬品試験会社の勝訴となったことで大いに評価され、大阪薬品試験会社の検査済み印紙は官立の大阪衛生試験所の印紙に匹敵するほどの信用を得ることとなった。

時代の転換に合わせて 問屋から製薬業へ。

それらと並行し、自分たちで製薬を行えるようになるための努力も重ねた。明治の初めから簡単な薬品の製造は



所蔵/小野薬品工業

個々の業者者によってなされていた。しかし、規模は小さく技術も未熟で家庭内手工業の域を出ず、品質は外国品に大きく劣っていた。なんとか挽回しようと、明治23年（1890）、武田・田辺・塩野義の3社共同出資でヨードを製造する「広業舎」を設立。輸入品に劣らないものを製造できるようになった。

さらに明治30年（1897）に有力業者者が結集して「大阪製薬株式会社」を設立。福島区海老江に当時の最大最

新鋭の製薬工場を操業させる。自店だけでは十分な製薬工場を持つことができないため、力を合わせて西洋に負けない製薬技術の向上に努める一方、それぞれに技術者を招いて独自の研究も行っていった。同じ町のライバル同士が結束しながらもしのぎを削ることで、良質薬品の国産化への第一歩を踏み出すこととなった。

大正3年（1914）に第一次世界大戦が勃発すると、薬品の輸入が途絶え、国内における製薬事業はいよいよ急務となり、道修町の各企業はいよいよ薬の輸入卸売業から製薬業へと転換を遂げていく。前に挙げた3社をはじめ、小野薬品工業、藤沢薬品工業（現・アステラス製薬）など、現在もなじみ深い会社ばかりだ。

戦後になっても道修町の製薬業はま



大正時代の道修町の様子。手前右には「武田」の屋号。今もこの場所に武田薬品の日本社ビルが建つ。写真提供/武田薬品工業

ますす発展していく。感染症に効く抗生物質のペニシリンや、結核の特効薬ストレプトマイシンの国産化などはその代表的な例と言える。道修町は「薬の専門家」として、日本人のくらしと健康を支え続けてきたのである。

道修町コラム.2

道修町の歴史の 厚みを体感できる場所。

少彦名神社の社務所ビルの3階に開設された【くすりの道修町資料館】。江戸時代の道修町を再現したという生薬の香りたどよう館内には、常設展示として古文書のほか、丸薬製造機や薬売りの商売道具などが並ぶ。4月と10月に入れ替わるテーマ展示も、生薬の豊富さや特定の製薬会社を特集したりと楽しいビジュアル。「製薬会社の新入社員は、まずここに連れて来られます。なにしろ1時間ほどで道修町の400年が学べてしまうので（笑）」と館長の深澤恒夫さん。元武田薬品工業に勤めていた経験を活かした館長直々のガイドも、名物の一つである。



くすりの道修町資料館

入館料は無料。館長による館内ガイドの申し込みは、電話にて問い合わせを。☎06-6231-6958 10:00AM～4:00PM（開館は平日のみ）
<http://www.sinnosan.jp/dosyouthi-index.html>

老舗企業の「Dターン」。

道修町

取材文／伏谷加奈子 江口由夏(本誌)

創業の場所への思いを胸に、赤レンガの旧社屋を史料館として再生。

今まで十三にあった武田科学振興財団が移転し、10月から旧本社ビルに「杏雨書屋」がオープンしました。大正12年(1923)の関東大震災で貴重な医薬書が失われたことをきっかけに、創業家である武田家は私財を投げうって医薬文献を収集しました。それを財団に寄贈したものが杏雨書屋です。

このビルは昭和3年(1928)に建てられました。当時、鉄筋コンクリート造り3階建てのビルは、まさにそびえ立っていたそうです。このあたりで鉄筋の建物と言えば、北浜の三越しかなかった頃ですからね。卸業から製薬会社になったばかりの時期にビルを建てることで、大阪商人の気概を見せたいんです。この武田の魂が、その後の発展の礎を築きました。



松室重光による設計は「安藤忠雄さんの賞賛もあり、保存を支持する社内の声が大きくなりました」。

グローバル製薬企業として、本社が大坂にあることを社員が普段から意識している。道修町は、旧小西邸、少彦名神社、くすりの道修町資料館があり、さらに近々展示物が増やされる予定の大日本住友製薬本社1階の展示、そして20

田薬品工業



「創業家の魂を伝えるために」
総務人事センター所長
阪口克己さん

15年開館予定の田辺三菱製薬の史料館など、歩くだけで歴史を感じられる通りです。その一つとして、武田薬品発祥の地に建つこのビルに親しんでもらいたいと考えています。

道修町が一番賑わうのはやはり神農祭の日。その時に一番喜んでもらえるように、常設展示のオープニング企画は「神農さん」を開催することにしました。これだけの数の神農さんの絵と彫像を見られる機会はめったにありません。少し入りにくい外観かもしれませんが(笑)、気軽に来ていただきたいですね。

杏雨書屋

2014年3月28日(金)まで「神農」をテーマにした特別展示を開催中。入場は無料。
☎06-6233-6108
10:00AM~4:00PM
土・日・祝休(11月22日(金)・23日(土・祝)は神農祭に合わせて閉館)



ポボンス

●塩野義製薬

疲れてしまったる前に、
先手必勝の賢い薬。

元気いっぱいな様子を表す擬声語の「ぼぼん」と、SHIONOGIの「S」で、ポボンス。配合された10種類(!)のビタミンとミネラルが、健やかで丈夫な身体をサポートする。



アリナミンEX プラス

●武田薬品工業

カラダの内側から、
目・肩・腰の疲れを楽にする。

脚気治療研究中に発見された「アリチアミン」が名前の由来。現在は、さらに改良されたフルスルチアミンが主成分として大活躍。血行を良くし、筋肉や神経に働きかける。



わたしたち 道修町生まれです!

薬局で、病院で、困ったときに
助けてくれる、おなじみの薬たち。
道修町生まれと知れば、
もっと愛着が湧いてくる?

文／伏谷加奈子

田辺三菱製薬



2015年、道修町に新社屋を建設。「本社は当然、大阪」を貫く理由とは。今回の本社移転について、当社社長の上屋裕弘は「道修町に帰ります」と表現したほど、この場所の歴史的価値を大切にしています。世代が上の人にとっては、道修町は製薬会社として社を構えたい憧れの場所でしたし、僕が就活をした30年前は「道修町に本社がある会社に入りたい」という空気が確かにありました。

「道修町の地から発信していくんです」 総務部グループマネジャー 中林 功さん

道修町コラム.3

「歩いて学べる ミュージアム」へ進化。

薬で有名な道修町だが、現在の様子はどうなっているのだろうか？ 本社を置く製薬会社の数だけを見れば、最も多かったのは約200社が軒を連ねていた1980年代。だが、平成に入るとグローバル競争を見据えた合併や買収などの影響で、東京に本社機能をシフトする企業も増え始め、2000年以降は道修町からの企業流出がいっそう顕著になっていく。



新規参入はと言うと、歴史ある道修町ブランドはちょっと敷居が高く、老舗企業に混じって肩身の狭い思いはしたくない…というのが本音。憧れの場所ではあるものの、安々とはい進出できない。こうした背景もあって、1980年代に比べると現在は半減してしまったようだ。

しかし、通りを歩けば目に入る看板は誰でも聞いたことがある企業ばかり。最近ではふらりと立ち寄れる入場無料の史料館も登場した。これは製薬会社のCSR（企業の社会的責任）活動の一環であり、街歩きから道修町の歴史を学んでほしいという大手企業の試みも始まっている。

を構えることは、その信頼を裏切らない覚悟を示す証でもあるんです。また、グループ会社のリスクを分散させる意味もあります。当社は三菱ケミカルホールディングスの一員ですが、他の事業会社は東京に本社があります。大規模災害に備えて、本社を東西に分散させることで結果として互いのバックアップ態勢を取れると考えています。新社屋には公開空地もあるので、そこでイベントや地域の会社と従業員による協働のボランティア活動をしたり、災害時には地域の被災者の方々に支援できるようなもなっています。また、2階には史料館も設置し、江戸時代に朝廷から薬屋であると認められた看板や古地図などが展示候補になっています。

移転をきっかけに今まで以上に地域に溶け込み、住んでいる方々や他企業と共存し、この町に貢献することができればいいですね。道修町の薬屋は歴史の節目節目を乗り越えてきました。グローバル化の今、当社も「国際創業企業」をめざして事業展開しています。この転換期に次の世代に何を渡せるかを考えた答えの一つが、道修町に戻ることにあります。世界に打って出るといって根を張ること、相反するように見えますけど、世界から見たら東京も大阪も一緒。私たちは大阪本社の製薬会社にこだわり、道修町の地から発信していくんです。



絶賛建設中の新社屋をお楽しみに。「進化し続ける道修町の新しいシンボルになれば嬉しいです」。

改源

●カイゲンファーマ

みんなの「風邪ひいてまんねん」の救世主。

神戸生まれ道修町育ちの製薬会社の主力商品。いまだき珍しい薬包紙に包まれた粉薬は、洋薬で熱と痛みを取り、生薬で身体を元気にする、東西医学のイトコ取りなのだ。



アスパラドリンクα

●田辺三菱製薬

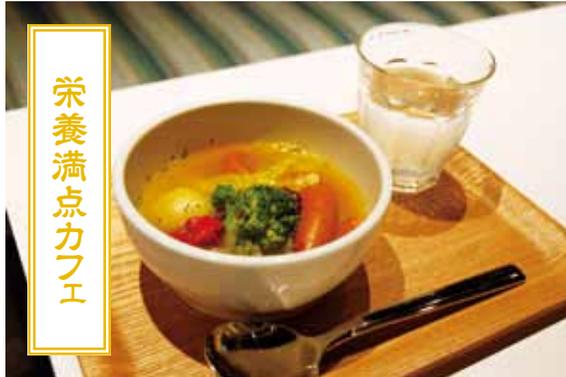
その疲れ、マイクロメートル単位でリセット。

疲労を感じる体内では、細胞内のカリウムイオンが減少しており、筋肉も神経もスムーズに働けない。主成分のアスパラギン酸カリウムが、細胞の1つ1つを補ってくれる。



薬だけじゃないんです! 道修町新名物

歴史と共に気になるのは、薬の町の「いま」。近年は堺筋や御堂筋に関連したイベントの会場としても活躍し、薬になじみのない人でも訪れやすいエリアとなりつつある。そんな道修町の新名物をお知らせしよう。



栄養満点カフェ

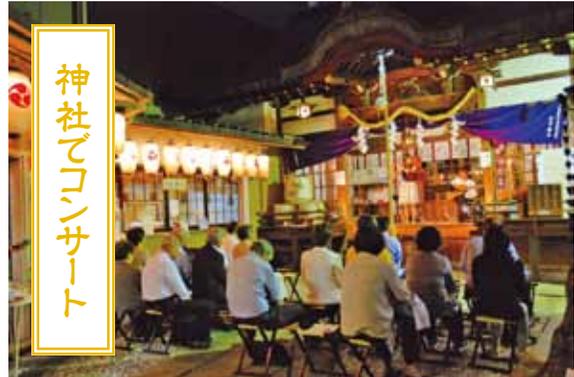
道修町で働く人たちに、強い味方が登場。食をご機嫌に楽しむヘルシーメニューとは。

薬の開発には欠かせない治験をサポートしてきたインクロム社が、「多忙で栄養バランスを崩しやすい現代人の食生活を支えたい」という願いから、道修町にカフェを出店。糖尿病や肥満といった生活習慣病を抱える人でも食を楽しめるよう、ローカロリーながらも豊富な食材を使った、思いやりあるメニューを揃えている。

目玉は、栄養摂取に効率が良いスープの数々。季節野菜の旨みが活かされたメニューは、寒くなるこれからにもってこい。女性客には、サイズも値段もカロリーもお手頃なスイーツが人気だ。「将来的にはお客様一人ひとりに、栄養管理士による食生活アドバイスができれば」と、店長の宮崎志保美さん。薬の町ならではの新名所に期待大だ。

プラスメディ
+medi

店舗限定のランチセットは680円～。定番のスープやスイーツはオンラインショップからでも購入可能。市内百貨店にも販売スペースあり。☎06-6226-3221 10:00AM～10:00PM(L.O 9:30PM) 土・日・祝休
<http://www.plus-medi.com>



神社でコンサート

堺筋の月初め恒例の、音楽を楽しむ夕べ。歴史的な建造物をコンサート会場に。

堺筋沿いの企業団体が提案し、この街なかのコンサートが定着したのは2010年。「今は固定の会場を提供してもらい、半年に1回のペースだったのが毎月開催できるまでになりました」と話すのは、運営に携わる相愛大学音楽マネジメント学科のスタッフ。「近代建築を活かして堺筋のにぎわいに貢献できれば」と、新井ビルの「五感・北浜本館」の会場協力も心強かった。現在は少彦名神社での野外演奏、その後に近代建築の室内演奏という、一日で二度美味しい音楽会が実現している。

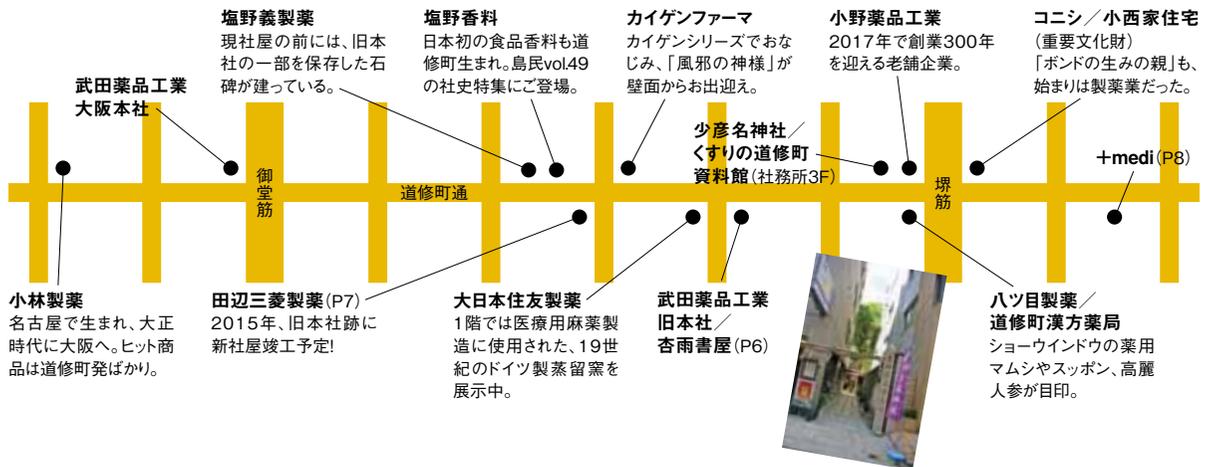
神社の本殿にセットされた楽器や楽譜台。こんな珍しい光景も、道修町の人々にはおなじみ。月の初日、境内には30人前後が集い、振舞酒を片手に、プロの音楽家が奏でるハーモニーに聴き惚れている。

堺筋街角コンサート

毎月1日開催。第一部は6:00PMから少彦名神社境内で、第二部は7:30PMから「五感・北浜本館」にて。参加費は無料。予約などは不要で、誰でも入場できる。ポサノバやクラシックなど、幅広い演目は<http://sakaisuji.osakazine.net>で確認できる。



島民も歩けば製薬会社に当たる道修町MAP



〈月刊島民 短期集中連載〉
京阪電車中之島線 開業5周年企画

中之島の 5年を ふり返る。

取材・文／大迫 力(本誌)



変わる人の 流れを見つめて。

2008年の京阪電車中之島線の開業から5年を経て、中之島の街の様子が変わりつつある。前号ではタワーマンションの増加や新しくできたビルなど、建築や街の風景についての変化を中心に紹介した。そうした状況の中で、中之島に集まる人や店、行われる催しなどは、どのように変わり、これからどう展開していくのだろうか。また、人々は中之島にどんなものを求めて足を運ぶようになったのか。さまざまな角度から「人の流れ」を見つめる立場の方々聞いた。

リーガロイヤルホテルの 中之島線5周年記念特別メニュー 「ラバーダックプレート」

京阪電車中之島線5周年記念のタイアップ企画として、リーガロイヤルホテルにスペシャルメニューが登場。先月開催された水都大阪フェス2013でも大人気だった、あの「ラバーダック」をイメージした可愛いオムライス。チキンライスを玉子で包んだ胴体に、顔はポテトとカボチャのサラダで表現。[オールデイダイニング リモネ]にて、12月30日(月)までいただける。



ラバーダック プレート

料金／2,000円(税・サ込) ※1日限定20食(予約不可)
期間／2013年12月30日(月)まで
問い合わせ／オールデイダイニング リモネ ☎06-6441-1056

新しい街での情報発信 というメッセージ。

オフィス街から性質を変えつつある中之島。では、それを促す立場の人たちは、どんな考えを持っているのだろう。商業施設の開発や店舗誘致の担当者に話を聞いた。

開業1周年を迎える中之島フェスティバルタワーの商業ゾーンの開発準備を担当した朝日ビルディングの井上雄介さんは、「文化・芸術の香り漂う中之島ならではの、上質な華やきのある街をつくりたい」というメッセージを強調したそうだ。「やはり朝日新聞社が建てるビルですから、ここから情報発信をしていきたいとお伝えしました」。その声は何か新しいことを始めたいと思っていた人たちの心に響き、結果として、各店舗において、このビルだからこそできる業態やサービスが生まれることになった。

2017年春〜夏頃には新たにもう1棟のタワーが竣工する予定だ。井上さんは、「フェスティバルタワーと一体になって中之島を盛り上げていきたい。キタやミナミとは違う、中之島にしかないスタイルを築いて、わざわざ来てもらえるようにしたい」と意気込みを語る。

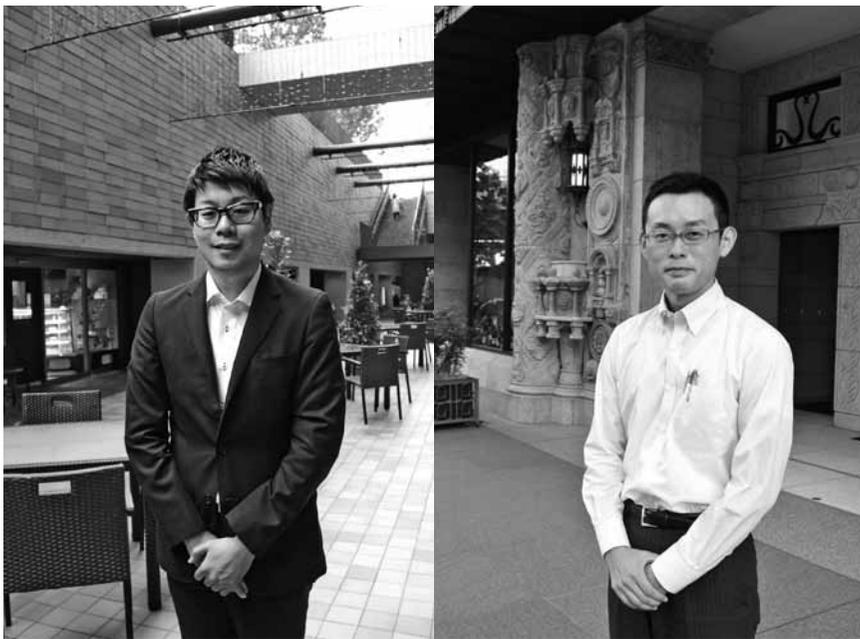
島民の声.4

「ここにしかない」場所に、人は集まる。

井上雄介さん(朝日ビルディング/左) 砂澤耕平さん(ダイビル/右)

ロケーションや建築の アピールが奏功。

今年オープンしたばかりのダイビル本館。低層部には個性的な飲食店が集まった。ところが、「実は誘致活動を始めた当初はあまりうまくい



っていなかったんです」とリーシングを担当した砂澤耕平さんは明かす。梅田や難波に比べれば人の流れの劣る中之島は、とにかく大人数を相手にしたい店舗にとっては魅力が薄かったのだ。

「そこで、緑や水に囲まれているびたくなる「ここにしかない場所」を創り出そうという熱意と、それに共感する人々の存在だ。2本の川に挟まれた立地と歴史、他には代えられない要素を活かすことが、さらなる人の流れを生む鍵になるのではないか。

というロケーションの面白さや、ダイビルの建築の価値に共感してくださる方を中心に会うことにしたんです。そうすると非常にスムーズにいくようになりました」

砂澤さんは、外観を復元するために手作業で取り外したレンガを持参し、ビルの魅力や創業の地である中之島の歴史を伝えた。「こんな場所ですらやってみたかった」「建物や環境が本国と似ている」といった反応に、中之島の魅力を再発見したという。

両者に共通するのは、わざわざ足を運

「学ぶ」は中之島に とっての伸びしろ。

中之島が学びの街になったのはそれほど新しいことではない。ただ、その内容がどんどん多彩になっていくのがここ最近の傾向。それをリードしてきたのはやはり大阪大学だろう。かつてのキャンパスの場所にある大阪大学中之島センターでの講座のほか、京阪電車とNPO法人「ダンスボックス」と共に企画・運営するアートエリアB1でのプログラムをはじめ、社会学連携という規模もジャンルもとにかく幅広い活動がある。

大阪大学21世紀懐徳堂の荒木基次さんは、江戸時代以来、中之島が大阪の街の中で担ってきた機能に注目。そこで見えてきた文化・学術・教育といったキーワードこそ、他にはない要素であり、中之島にとつての「伸びしろ」もここにあると考えている。「最近マンションが増えてきましたが、生活感はまだ漂っていない。中之島に住もうという人は、緑や水があって、博物館や美術館がある文化的な街というイメージを享受したいのだと思います。だったら、そういう文化学術エリアみたいな方向へアートエリアB1も中之島センターももっと特化していく」と



島民の声.5

「開かれた学び」が 似合う街に。

荒木基次さん(大阪大学21世紀懐徳堂)

も配布した。内容の充実度はもちろん、流行りや来場者の満足度も意識した好企画だった。

「大学の授業をそのまま持つてくるだけではないけれど、わかる人だけがわかればいいというものでもない。社会との接点、ブリッジを架けたやさしい構図にしていきたい」と

現在、荒木さんは中之島周辺の文化や学術にまつわるスポットを網羅するマップの制作と配布を計画中だという。そして、そのエリアを「NACC」(=Nakanoshima Academic& Culture Communication)と呼び、アピールしていくことで、中之島「学びのイメージをさらに定着させていくのではと考える。「そこに行けば何かがやっている」という知的な好奇心に溢れた街であることよって、商業施設や観光地とはまた異なる人の流れが生まれている。

アカデミックな講演会や社会人向けセミナーが多かった中之島センターと、アートを中心とするエッジの立ったプログラムを連発するアートエリアB1。それぞれの長所をうまく結びつけながら、多くの人に開かれた楽しい学びの場をつくり出そうと荒木さんは試みる。

知的好奇心が 新しい人の流れを生む。

その好例が8月にアートエリアB1で展示とトークサロンが行われた

「おださくが歩いた大阪」だった。作家・織田作之助が作品に描いた場所を示した地図に加え、NHKで制作されたスベシヤルドラマの写真パネルを展示。トークには大阪大学の教授陣や研究者だけでなくNHKのドラマ制作ディレクターも参加し、会場では「オダサク大阪道遙地図」





エリアとして 厚みを増してきた中之島。

中之島線が開業してからの5年を、京阪電車の方自身はどのようなように振り返っているのだろうか。短い連載の締めくくりに、お話をうかがった。



島民の声.6

街と人とを「つなぐ」 鉄道として。

安積正彦さん

(京阪電気鉄道 経営統括室 事業推進担当部長)

「中之島はそもそもビジネス街であり、文化や歴史も豊かな街でした。そこに人が住むようになり、水辺の良さを活かしたやすらぎが加わることで、エリアとしてバランス良く魅力を増してきたと考えています」と、京阪電車の安積正彦さんはこの5年を総括する。変化よりも、もともとあった要素に加え、厚みが増したという捉え方である。京阪電車は、先ほど紹介したアートエリアBIの運営にも関わるほか、水都大阪フェス、

毎年冬に行われる光のルネサンスなど、中之島で行われるイベントにも積極的に協力し、街の盛り上げにも一役買っている。「人と人との出会いや、芸術や歴史との出会い。あるいは鉄道によつて街と人のいろいろな出会いをつなぐこと。それによつて沿線のにぎわいが生まれれば」との思いからだ。この連載での取材を通して考えても、取り組みは着実に実を結んでいるように思える。

沿線とつなぐことで、 中之島の魅力を発信する。

そうした中で、安積さんは中之島を訪れる人の幅がどんどん広がっていることに注目している。ランニングや愛犬との散歩を楽しむ人、美術館の行き帰りに街を歩く人、あるいは公園でヨガをしたり、バドミントンなど水辺で遊ぶ人。年齢層もスタイルもさまざまな人たちが、それぞれに空間を活かして快適に過ごしている。キタともミナミとも違う中之島の良さは、こうした「余白」の多さではないだろうか。つまり、テーマパークや商業空間のようにあらかじめ決められる「余白」が大きいのだ。

最後に、今後の中之島に対する期待や課題について聞いた。

「現在も着々と街づくりが進んでいますが、西エリアをはじめ、さらに開発が進んでほしいですね。その中で、働く人、住む人など、いろいろな方々がつながりを持つことで、あたたかみのある街になるのではないのでしょうか。鉄道会社としては、中之島を京都や沿線の他の街と結ぶことによつて、魅力を発信していきたいと思っています。中之島で何が、どんな形で楽しめるのか、まだまだよく知られているとは言えません。『中之島はこんなところですよ、だからお越しください』というわかりやすいメッセージをこれからも伝え続けていきたいと思っています」



関西人のための

「新潟のええとこ・うまいもん・ゼミナール」
 すぐ満席になるので、お早めに！

第2回「自然の恵みは甘いぞ〜上越・妙高びいき」講師／小林明子

もうすぐ新幹線が通るあの場所は、
 素材の旨さたっぷり楽園でした。

生粋の京女で食べることが生涯の趣味、
 『あまから手帖』『文藝春秋』『SAVVY』
 などにおいしい記事を連載している小林
 明子さんは、実は20年以上前から新潟フ
 アンだった。妙高高原のスキー場でさら
 さらの雪と長大なダウンヒルコースの洗
 札を受け、果てしなく広がる水田に度肝
 を抜かれ、その米でつくった酒に魂を取
 られ、地元魚や牛肉に「なんで脂がこ
 んなに甘い」と驚愕し、と、一つひと
 つ新潟、というか上越・妙高エリアの魅
 力にヤラれてしまったのです。

その地域にいよいよ平成27年（201
 5）春に北陸新幹線が通ること、小林
 さんなどエッジな新潟ファンだけが感じ
 ていた「美味いもん」の幸せをわれわれ
 島民読者も味わえるようになります。

当日はこの夏、『あまから手帖』10月
 号の取材旅行で訪れた上越・妙高の「名
 勝・名水・銘酒・名店」を写真付き垂延
 必至のトークでたっぷり。ちなみにこ
 こで言う「上越」とは、上越新幹線が走
 っているエリアとは全然違うんです。ち
 よつとややこしいけど面白い新潟ゼミナ
 ール第2弾、お楽しみに。



◎今月の授業
上越・妙高地域

左上から右回りに、妙高山といもり池、脂が甘いびき和牛のステーキ、「淡麗辛口」とは真逆
 の米の旨みがたまらぬ鮎正宗、冬に絶品の鮭のにぎり。あー……



こばやし・あきこ
 同志社大学の学生時代から書き手の仕事に従事し、女性誌や総合誌、
 グルメ雑誌で活躍。京都の店や京都人の気質を紹介するフレンドリーな
 語り口に、あふれる愛と少しばかりの「いけず」が光る。著書に「京の骨
 董は使うもんどすえ」（廣済堂出版）、少女時代の自伝コミックエッセイ
 「せやし だし巻 京ぞだち」（原作／140B）がある。

今後もお楽しみに！
 新潟ゼミの講師陣

- 第3回 2013.12.18（水）
 岩佐十良（『自遊人』編集長）
- 第4回 2014.1.29（水）
 桂梅園治（落語家）
- 第5回 2014.2.26（水）
 葉石かおり（利き酒師）
 ※会場は未定



◎第4回までの会場は
 梅田・富国生命ビル4Fの多目的
 スペース「アサヒ ラボ・ガーデン」。
 お弁当持参にも打合せにもおひ
 とりさまの読書スペースにも、疲
 れた時にふらっと寄れる憩いの
 場にも人気です。定期的に開か
 れるセミナーもゼミ。新潟ゼミ第1
 回は10.30（水）に遠藤哲夫さん
 講師で開催されました。
 ☎06-6926-4070
 11:00AM～8:00PM 日曜休
<http://www.asahigroup-holdings.com/research/labgarden/>

「自然の恵みは甘いぞ〜上越・妙高びいき」

日時／2013年11月27日（水）
 6:30PM～8:00PM（開場6:00PM）
 会場／アサヒ ラボ・ガーデン（大阪富国生命ビル4F）
 受講料／無料（新潟県のお土産付き） 定員／30名
 主催／新潟のええとこ・うまいもんゼミナール事務局
 後援／公益社団法人新潟県観光協会
 協力／アサヒ ラボ・ガーデン、関西食ビジネス研究会

お名前・ご住所・電話番号を明記のうえ、下記までハ
 ガキ、ファックス、もしくはナカノシマ大学HP内の応募
 フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスに
 ついては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の
 必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお
 申し込みの方は、講座名を必ずお書き添えください。
 〒530-0004 大阪府北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビ
 ル4階「関西にいがたゼミ」受付係 FAX.06-4799-
 1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講
 票をお送りします。定員に達し次第締切。



大阪の私鉄の
個性を読み解く!

◎今月の授業①

【鉄道】

2013年12月講座

「すごいぞ! 鉄道王国・大阪〈私鉄編④〉」

講師／黒田一樹(中小企業診断士・鉄道愛好家)

シリーズもいよいよ大詰め。次に登場する私鉄は…?

快適性や速さを競う中で育った関西の私鉄の個性を、独自の視点からあぶり出したキーワードで読み解くシリーズ。第4弾は阪神電車が登場する。そのキーワードは「スピード」。平均駅間距離1km未満の阪神本線でピートを刻む加減速性能日本一を誇る普通用車両「ジェットカー」はあまりにも有名。だが、この短い駅間も駅の構造も、実は阪神間を直線的に結ぶ2社を向こうに回し「真の速さとは何か」をひたすら追求した姿である。

また、路線長わずか48.9kmと近鉄の10分の1以下でありながら、直通運転により1998年には姫路、2009年には奈良へと通じた。阪神電車に受け継がれる「スピードキング」のDNAに迫る。

2013年12月講座

「古地図ウォーカー、大阪をゆく」 第3回 大坂冬の陣への道。

講師／本渡章(作家)

天下分け目の合戦にまつわる地図が登場!

古地図と現代の街の様子を見比べながら歩いてみる、本渡章さんによる人気シリーズ。今回は一風変わった地図が登場する。それは「石山合戦配陣図」(下/大阪城天守閣蔵)だ。

これは「石山合戦」と呼ばれた本願寺と織田信長との戦いの際に、どのように軍勢が配置されていたのかを描いた図。難攻不落を誇った大阪城がどのようにして生まれたのか、蓮如による大坂本願寺の建立、さらには豊臣秀吉による大阪城下町建設なども見た上で、大坂の陣へと続くはかな道をたどる。合戦の様子を伝える古地図はどんなことを語ってくれるだろうか。会場が大阪城のすぐそばだけに、臨場感もたっぴりだ。

◎今月の授業②

古地図を手にして
街へと出よう

【古地図】



募集要項	<p>①「すごいぞ!鉄道王国・大阪」</p> <p>日時/2013年12月4日(水) 7:00PM~8:30PM頃(開場6:30PM~)</p> <p>会場/大阪市中央公会堂 小集会室 受講料/2,000円 定員/90名 主催/ナカノシマ大学事務局 協力/関西・大阪21世紀協会</p>	<p>②「古地図ウォーカー、大阪をゆく」</p> <p>日時/2013年12月18日(水) 7:00PM~8:30PM頃(開場6:30PM~)</p> <p>会場/追手門学院 大阪城スクエア 受講料/2,500円(教材用地図代込み) 定員/120名 主催/ナカノシマ大学事務局 協力/関西・大阪21世紀協会</p>
	<p>お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「ナカノシマ大学12月講座」受付係 FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。</p>	

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら!→



お問い合わせ ☎ 06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)

島民よ、この店のパンを食え!

第五回

オフィス街の正しいパン屋さん 「ボンシヤンヌ」

江弘毅(本誌編集発行人)

実はこの「店のカウンターでも食べられる」老舗のパン屋さん、「月刊島民」編集部がある古河大阪ビルの地下にある店なのだ。

なので2日に1回ぐらいは行っている。意識したことはないが、パンは全種類食べているはずだ。カレーパンはレギュラーと激辛と牛すじ黒カレーもその日の気分で食べている。カウンターに座って喫茶店のようにも使わせていただいている。

何を隠そう昨日の昼は、店の外のOLさんの列(すごい活気で昼だけ売ってるサラダを買う人多し)に並んで、焼きたてのエビマヨとチキンカレーを昼飯にした。サンドイッチもうまし、で食パンをわざわざ&絶妙な加減に焼いてあるポークカツサンドもイケるし、フルーツサンドは買ってオフィスに帰って冷蔵庫でちよつと冷やして食べるとなおうまい。

と、わたしはそんな感じだが、わが社の社長(50代のおやじだが)は、ちくわパンがことのほか好物で、夜遅くまで仕事をやる場合は必ず閉店前に買いに行ってるし、この連載にも登場した北新地・堂島浜(中通り)の細うどん「黒門さかえ」のねえさんは「ごろっとジャガイモのはいったのん」を筋向かいのアクア堂島にあった店でよく買

っていたそうで、今もちよくちよくうちのビルの地下まで買いに来るそうだ。

界隈の知り合いと話すると、そういえば「ボンシヤンヌ」、前の新朝日ビルにもあったなあ、チキン店なのかなあ、などと思いついては話題になる。と、ツイッターでつぶやいたら、「もつと昔



はドーチカにもあって、青泉社という本屋の近くだった」とのリプライがすぐに来た。それぐらい、中之島、堂島、北新地界隈の間ではポピュラーな存在の焼きたてパン屋さんなのである。

店もパンもまったくオフィス街仕様などころがよい。昼飯にポークやチキンカツや魚フライサンドを食べる場合はオフィスのインスタントのホッ

トコーヒーがうまくて、夕方に小腹が空いたときのカレーパンはコココーラが一番合うことも知っている。どうだ参ったか。「ボンシヤンヌ」のパンもわたしの食べ方も、バリバリに正しきオフィス仕様なのである。

若屋や夙川、あるいは北摂にあって、デバ地下にも出店している「ブルーランジェリー」的なそれであれば、買って帰って思わずワインなど飲んでしまいうさだが(ハーブティーも可)このパンはそういうよこしまなところがないのだ。

昭和なビルの「地下商店街」の昭和なパン屋さん、聞けばビルが竣工した当時からのお店で、40年以上やっているとのこと。多分その時代はカウンターで食べられるイートイン方式が、最前線にかつよかつたものだろう。そして現在は、常連さんがほつとひと息つきにくるカウンターになっている。



ボンシヤンヌ

現店主の佃さんご夫妻が、新朝日ビル、アクア堂島と2つの[ボンシヤンヌ]を経てこのビルに来たのは10年前。サンドイッチも合わせて60種類ほどあるパンは、約6坪の店の奥にあるガス窯で、朝の開店時とお昼前に分けて焼かれている。毎月1~2種類ずつ新商品が登場。パン1個にコーヒー、ゆで卵が付いて290円のモーニングもある(10:30AMまで)。☎06-6341-6076 8:00AM~7:00PM 土・日・祝休
写真/李 宗和



→岸和田だんじり祭も終わり。一息ついたところで、新潮社の「波」で連載していた「有次と庵丁」の単行本化のための加筆に取りかかる。書きたいこと山ほどあるやんか。

「生きた建築」という建築に対する考え方が生まれている。時代の流れに沿ってその姿や用途を変えながらも愛され続けてきた建築のことで、そこに刻まれた街の歴史や人々の営みの様子を評価するものだ。

大阪市の都市魅力戦略推進会議が進める「生きた建築ミュージアム事業」がまさにそれにあたる。中之

島や御堂筋界限において「生きた建築」を選定して評価し、公開などしていくことで、大阪という都市の物語を伝えていこうとするものだ。その選定委員の一人でもある建築家の高岡伸一さんは、「生きた建築」の魅力をこう語る。

「建築は『保存』など竣工当時のオリジナルであることが賞賛されるケースが多い。けれど、時代によって多形状や用途が変わっていても、長い間使われてきたことに意味があると思うんです。それは各時代の都市生活の痕跡であり、積み重なれば都市の歴史になる。生きた建築はその証です」

よ て、そんな大阪の建築を存分に体験できるイベントが、船場エリアにて今月立て続けに開催される。

「生きた建築」という街の遊び方がある。



11月22日(金)、前述のミュージアム事業のキックオフイベントとして行われる「大阪建築夜会 建築男子、大いに語る」は実に豪華なメンバー。近代建築好きとしても知られる作家の万城目学さんに加え、事業の提唱者でもある橋爪紳也さん、そして建築史家の倉方俊輔さんに高岡さんも加わり、船場を中心として「生きた建築」の魅力語り合う。会場が綿業会館というのもたまらない。

また、同じ時期に11月19日(火)から6日間にわたって行われる「船場博覧会

2013」では、船場のあらゆるスポットで展示やコンサート、セミナーが行われる。重要文化財である旧小西家住宅でのお茶会あり、近代建築をめぐるツアーあり、「生きた建築」にスポットを当てたプログラムもたくさんある。

今回の特集で取り上げた武田葉吉工業の杏雨書屋(P6)や、先日再オープンした中之島のダイビル本館などはまさに「生きた建築」の典型的な例だ。街を歩く時の新しいキーワードにしてみたいかがだろうか。

船場博覧会2013

船場を舞台に、展示、セミナー、コンサート、街歩きツアーなど、とにかくたくさんのプログラムが。その全貌はホームページもしくはパンフレットを確認を。
期間／11月19日(火)～24日(日)
※ホームページは「船場博覧会」で検索を。

「生きた建築ミュージアム事業」ホームページ

<http://www.city.osaka.lg.jp/toshiseibi/page/0000222838.html>

大阪建築夜会

「大阪・船場×生きた建築～建築男子、大いに語る～」

日時／11月22日(金)6:30PM～8:00PM(開場6:00PM～)

会場／綿業会館本館 7階大会場

入場料／500円

定員／150名

詳細・申し込み／大阪建築夜会のホームページ内専用フォームより

(※希望者対象の館内見学ツアーもあり。応募多数の場合は抽選)

トウニン月報

2013年11月1日発行

駅というパブリックスペースを独創的なアート空間に変身させるアートエリアB1の「鉄道芸術祭」。今年は知の巨人とも呼ばれる編集者・松岡正剛氏が監修する「上方遊歩46景」言葉・本・名物による展覧会」が目玉となる。

メインプログラムとなる展

アートエリアB1の鉄道芸術祭 今年のテーマは「言葉・本・名物」

写真/井上嘉和



示は「上方遊歩46景 うたよみ／もののみ／ものがたり／ひとがたり／しなさだめ」。京阪本線と鴨東線、中之島線合わせて46ある京阪電車の駅の名前が書かれた柱に、その駅を象徴する名物と関連する本2冊が入る。また、松岡氏が選んだ小説家、美術家、研究者たちが京街道を軸に上方を探訪。そこで得たインスピレーションを元にした作品も数多く展示される。

鉄道芸術祭vol.3 松岡正剛プロデュース 「上方遊歩46景～言葉・本・名物による展覧会～」

期間/12月25日(水)まで
開館/12:00PM～7:00PM 月曜休館(※祝日の場合は翌日休)
入場料/無料(※一部有料イベントあり)
会場/アートエリア B1(京阪電車にわ橋駅地下1階)

【主なプログラム】

- 「上方遊歩46景 うたよみ・もののみ・ものがたり／ひとがたり／しなさだめ」京阪電車の46駅を名物と関連書籍で紹介する現代版街道図的な展示。
- 上方本談、どこまでも話す年。
- ソロートークあり対談あり。作家・研究者・落語家・浪曲師などゲストは多彩。
- 「エディット・トレイン〜ギターと浪花節との道行き〜」京阪電車の貸切電車内を舞台に、京街道の風景を音楽と言葉によってご案内。
- 読者力養成ワークショップ「本活」「読活」超豪華講師陣に学ぶ「本活」と、本を声に出して読む「読活」の二本立て!

◎各プログラムのゲストやテーマ、開催時間、料金などは、アートエリアB1のホームページ(<http://artarea-b1.jp>)やパンフレットなどで確認を。



くさん。全10回にわたる「上方本談、どこまでも話す年」では、11月30日(土)に久坂部羊さん&仲野徹さんの対談という「ブラック・ジャック」は遠かった「コンビも登場する。その他、京阪電車の貸切車両を使った音楽イベントや、内田樹、玉岡かおる、安田登といった超豪華講師陣による「読者力養成」のための少人数ワークショップなども。本好き活字好きな諸君は、12月まで中之島に通つべし。(大迫力・本誌)

大阪市立工芸高校卒業生の 作品が江之子島に集う



大阪府立江之子島文化芸術創造センターで開催される「オトナ工芸魂」には、卒業したばかりの新人から、現役パリのクリエイター、時代を

大阪府立江之子島文化芸術創造センターで開催される「オトナ工芸魂」には、卒業したばかりの新人から、現役パリのクリエイター、時代を

文化勲章受章者で彫刻家の淀井敏夫氏など、中之島にゆかりの深い卒業生も多い。江之子島の

第1回オトナ工芸魂
日時/11月2日(土)・3日(日・祝)
11:00AM～7:00PM
(3日は～4:00PM)
会場/江之子島文化芸術創造センター 地下1階
入場料/無料
<http://ameblo.jp/otona-kogei/>

築いた大御所が同じ土俵で競い合う展覧会。今は作品づくりから離れてしまった卒業生たちにも呼びかけて作品を再び創作意欲を燃やしてもらおうという狙いもある。3日にはワークショップやクラフト市もあり。知る人ぞ知る伝統校が宿す「工芸魂」を見届けよう。(大迫力・本誌)

昨年引き続きイタリア文化会館が開催する「イタリア留学フェア」は、現地の名門大学をはじめ、語学学校や料理専門学校などのブースが開設され、各校の紹介が行われる。今年もイタリア全土から22校が集まり、留学に関する最新情報を生で仕入れることができる。各ブースには日本人スタッフや通訳アシスタントが常駐しており、日本語でのやりとりが可能。自分の希望に沿ったプランを相

名門大学の情報を生で聞ける イタリア留学フェア



イタリア留学フェア
日時/11月10日(日)10:00AM～5:30PM
会場/中之島フェスティバルタワー26階
入場料/無料(入退場自由)
問い合わせ/イタリア文化会館大阪 ☎06-6229-0066

「イタリアでの生活ってどんなもの?」といった素朴な疑問にも具体的に答えてくれるはずだ。また、イタリアの食材と雑貨を集めた「Mercatino italiano」にもたくさんのブースが出店。買い物を楽しみに出かけても面白そう。カフェコーナーもあり、エスプレッソを飲みながらイタリアの菓子パンやサンドイッチを食べたりといった楽しみも。(大迫力・本誌)

華やく街に誘われて

フェスティバルプラザの「大阪らしさ」をめぐる

2

008年の登場以来、このフェスティバルプラザ店を含め3店舗を展開する「ぶらす館」。

今や押しも押されぬ看板商品となった「もちパイ」は、サクサクで香ばしいパイ生地の中から柔らかな餅と風味豊かな粒餡が顔を出す新感覚スイーツだ。

コーヒーや紅茶とセットで焼きたての味を楽しむ人の様子を、「和菓子屋さんかしら？」洋菓子屋さんかしら？」と眺めているご婦人の気持ちもわからないではないが、それこそがこの店の魅力だと思っている。

「ぶらす館」ブランドを手がける「青木松風庵」は、大阪府最南端の岬町深日で30年前に創業。以来、「和菓子はこうあるべきだ」という固定概念に囚われることなく、伝統を守りつつ遊び心あふれる自由な発想でもちパイのような新しいお菓子をつくり続けてきた。現在もそのトップとして走り続けるのが、創業者でもある青木啓一社長だ。高校を卒業してすぐ祖父の和菓子屋に入り、十余年にわたって餡を炊き続けた菓子職人。どんどん湧いてくる新しい菓子づくりの発想を実現すべく、31歳で独立を果たし「青木松風庵」の屋号を掲げた。

こんなエピソードがある。創業当時、東京では粒餡の大福餅に母を入れた母

サクサクのもちパイは、大阪の菓子処の真骨頂。

文/尾添雄介 (ライター/編集者)

大福が大ブーム。それを知った青木青年は「白(餅)と黒(粒餡)と赤(母)か」。色合いや食感を工夫した方がええんちゃうか」と思案。大福餅を羽二重餅に、粒餡を白餡に変えるなどのアレンジで独自の母大福をつくり出し、大阪に広めたとされる。

白餡の甘さと母の甘酸っぱさが絶妙にマッチした味の良さはもちろん、中が透けるのでほんのりピンク色になり見た目も美しい。東京発信の流行を頑なに拒むようなアンチ精神でも、単なるコピーでもなく、面白がって楽しみながら取り込んだ、大阪人として痛快極まりないエピソードである。



そんなバイタリティあふれる菓子づくりを支えているのは、マーケティングでも戦略でもなく「お客さんに喜んでもらうために美味しいお菓子を作りたい」という純粋な思いなのだろう。その思いを実現するため、命である餡は100種以上のレシピに基づいて完全自社製餡し、365日休みなく稼働する工場から、1日3回配送し、できたての味を店舗に届ける。

菓子づくりには一切の妥協を許さない食への真摯さと、遊び心ある柔軟な発想。そのバランス感覚こそ、大阪で生まれた菓子処の真骨頂だと思う。

おぞえとゆうすけ
泉州岸和田出身のライター/編集者。ガイドブックの取材などで、関西圏を駆け回る。だんじり祭や地元ネタ満載フリーマガジンなど、地元泉州にも深くコミットしている。

祝祭へようこそ。



<http://festivalplaza.jp/>

提供/株式会社 朝日ビルディング



ぶらす館 中之島フェスティバルプラザ店

●中之島フェスティバルタワー B1F

看板商品のもちパイ(1個200円)は店内のカフェで焼きたてを味わうことができ、ドリンク代+100円のセットも。あんみつやぜんざいもいただけ、意外に男性ファンが多いのだとか。また、今年春に開催された全国菓子大博覧会で内閣総理大臣表彰を受けた「みるく饅頭 月化粧」(1個126円)をはじめ、販売コーナーにも多彩なお菓子が揃う。

☎06-6226-3003 10:00AM~8:00PM 不定休

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅/京阪シティモール/京阪モール/デリスタ天満橋店/ホテル京阪天満橋/ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 [書店] 旭屋書店 梅田地下街店/カベラ書店/紀伊国屋書店 梅田本店/紀伊国屋書店 本町店/ジュンク堂書店 大阪本店/ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店/ジュンク堂書店 天満橋店/MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店/スタンダードブックストア/天牛書店 大江橋店/ブックファースト 梅田店/ブックファースト 淀屋橋店/文教堂書店 淀屋橋店/隆祥館書店
- [公共施設・大学関連施設など] アイスボット/朝日カルチャーセンター/味の素 食のライブラリー/ABC朝日放送/大阪企業家ミュージアム/大阪倶楽部/大阪工業技術専門学校/大阪国際会議場/大阪市中央公会堂/大阪市立中央図書館/大阪市役所市民情報プラザ/大阪城天守閣/大阪商工会議所/大阪大学中之島センター/大阪21世紀協会/大阪府立中之島図書館/大阪ボランティヤ協会/大阪歴史博物館/追手門学院 大阪城スクエア/川の駅(ちけんや)/関西学院大学 大阪梅田キャンパス/慶應大阪リバーサイドキャンパス/国立国際美術館/CITY NAIL'Sインターナショナルスクール/芝川ビル/市立住まい情報センター/中央電気倶楽部/ホテルNCB/メビック扇町/立命館大阪オフィス/龍谷大学大阪梅田キャンパス
- [店舗・医院など] アリアスカ マーブルトレ/アンドレ 本町本店/上町貸自転車/Ultra 2nd/江戸前鯉料理 志津可/天満橋鍼灸整骨院/MJB珈琲店/大西洋服店/OOO(オー) /カセッタ/喫茶カウンター/喫茶SAWA/クラシエート中之島/黒門さかえ/モモンカフェ/サトウ花店 中之島本店/サ・ムロディ/シアトルズベストコーヒ-新聞ビル店/しろう亭/Girond's JR/心齋橋山田兄弟歯科/住友病院/セブンイレブン 大阪証券取引所店/タビエスタイル/たまがわ鍼灸整骨院/東郷歯科医院/NAKAGAWA1948 淀屋橋店/ナンジャーン/バスターール/花かつ/BAR THE TIME 天神/平岡珈琲店/ビルマニアカフェ/フレインハウス/ミニロー/宮崎歯科/やきとりばかや/吉田理容所/ラクッカーニャ/LES LESTON
- 大阪市内その他 [書店] 伊勢屋書店/大阪書店/紀伊国屋書店 京橋店/なんばミヤタ/福島書店/柳々堂/ループル書店 [公共施設・大学関連施設など] 大阪市社会福祉研修・情報センター/大阪市立図書館/川口基督教会 [店舗・医院など] あじさい/アートアンドクラフト/欧風食堂 ミリパール/大阪市信用金庫 江戸堀支店/御舟かもめ/Calo Bookshop and cafe/写真とプリント社/鳥かごキッチン/ネイルサロン スワンナ/バルビコ/ホステル64オオサカ/MANGUEIRA/Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店/学運堂 フレスト店/Books 呼文堂/水嶋書房 くずはモール店/大阪狭山市立図書館/大阪大学企画広報社/学連事務務室/大阪大学 21世紀徳徳堂/大阪大学本部/寝屋川市役所/摂南大学 地域連携センター/郵政考古学会/ゆったりんこ
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店/水嶋書房 丹波橋店/伊丹市文化振興財団/大手通りストリートギャラリー 街・発信/納屋工房/タバーン・シンボン/百練/奈良県立図書館情報館

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 御堂筋を歩け！

中之島を縦断する御堂筋。高さ規制緩和の動き、地下共同溝ウォークなど、大阪一の大動脈に関する、最近のトピックをまとめてご紹介。

●『月刊島民』vol.65は2013年12月1日発行です！

編集・発行人/江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行/月刊島民プレス
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 大迫力 江口由夏(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行/堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン/山崎慎太郎
表紙イラスト/奈路道程
印刷/佐川印刷株式会社



秋の特等席に、
来ました。

中之島けい子
東福寺（通天橋）

紅葉まるごと、 おけいはん

京阪電車によって、染まる風景の真っただなかへ。



清水寺 清水五条駅下車



永観堂 地下鉄鶴上駅下車
(ライトアップ 11/8～12/5実施)



圓光寺 叡山電車 一乗寺駅下車



日吉大社 坂本駅下車

京阪沿線の紅葉名所

三千院、実相院、鞍馬寺、貴船神社、もみじのトンネル(叡山電車)、法然院、真如堂、南禅寺、青蓮院、高台寺、東福寺、泉涌寺、毘沙門堂、醍醐寺、三室戸寺、善法律寺、男山、北野天満宮、常寂光寺、比叡山延暦寺、三井寺、石山寺

詳しくは、京阪電車主要駅のK PRESS 2013秋の増刊号をご覧ください。

おけいはん
の
人。

www.okeihan.net

Facebook @c.okeihan

紅葉めぐりに「便利でお得なチケット」発売!

お問い合わせ：京阪電車お客さまセンター
Tel.06-6945-4560
9時～19時 ※土・日曜、祝・休日は17時まで



11/2～12/1の
すべての土・日曜、祝・休日に運転
※京橋駅～七条駅間ノンストップ